

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 3年 1月 29日

公表:令和 3年 2月 5日

事業所名 こどもデイサービスぽると

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		国の基準に基づいたスペース以上を確保し、コロナ感染対策で席の間隔も十分に空けている。	定員人数に対する広さは十分確保している。保護者に分かりやすいように今後も最善のスペース作りに努めていく。
	2 職員の配置数は適切である	○		国の基準に基づいた職員数を適切に配置している。	規程の人数以上に確保できている。さらなる支援の拡充の為に増員の視野に入れている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		通所している子に対して、配慮を行っている。	今後、賃貸契約内で出来る範囲でバリアフリー化の必要が生じた場合、適切な工夫をしていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の申し送りに加え、定期的に職員研修や支援についての会議を開催している。	より良い業務・支援を目指すため、会議等での見直しの機会をさらに増やすようにする。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートによる保護者の意向を積極的に取り組んでいる。	今後、アンケート以外でも保護者からの意向があった場合、迅速に対応していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所ホームページにて公開している。	お便りで改善点を分かりやすく伝える。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在、第三者外部評価を行っていない。	今後、適切な方をお願いし、第三者による評価を行うようにしていきたい。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な研修と会議を開き、の子どもの特性や支援等の周知を行っている。	引き続き、外部の研修や施設内研修を円滑に参加できるように計画していく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的な面談に加え、必要に応じて随時面談を行い、その内容を反映した計画を作成している。	さらに通所している子や保護者のニーズにより添えるように、今後も努めていきたい。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		状況を細かく把握するために、状況を記入できる様式の書面を利用している。	随時、より分かりやすいアセスメントツールの作成して、通所している子の状況をより把握できるようにしていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職場の立場は関係なしに全職員全体で立案を行っている。	職員が個々に立案した活動プログラムを会議にのせて職員全員で話し合い、それぞれの良いところを抽出して、より良い活動プログラムの立案をしていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		担当を交代する等を行って、支援内容が偏らないように工夫している。	保護者からの意向や、文献や研修、インターネット等で参考にして工夫をしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		生徒の利用日・時間・状況等に合わせた活動内容を組み立てている。	引き続き、子どもたちが楽しめるように、更なる計画を立案してより良い活動作りを心掛けていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性や状況等に合わせた計画を作成して、必要に応じて内容を変更・更新している。	引き続き、支援プログラムの増加・変更・更新を行い、個別課題・集団活動ともにより良いものにして提供していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日申し送りをし、支援内容の周知や役割分担を確認を行っている。	引き続き、より誰もがわかりやすく確認できる様に、WHIに2週間分の予定と職員の担当や動きを記入、申し送り帳により詳細な内容を記入し、周知できるように更新していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りは行っている。必要に応じて仕事ラインでも統一事項の情報共有している。	さらなる情報共有の円滑化に努めていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援を連絡帳に記録し、保護者にも迅速に情報共有して改善を行っている。	改善した内容もしっかりと記録して、申し送りや会議等の場で振り返りの機会を設けている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングと計画の見直しを行っている。	定期的なモニタリングに加え、必要に応じて行っており、その都度、見直しを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインに則った基本的な支援だけでなく、地域のイベントへの参加や老人ホーム慰問等を設定し交流を図っている。	ガイドラインを随時活用していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者や精通した職員がサービス担当者会議に参画している。	担当者が参画した内容は、会議の後に他の職員へ円滑に伝達するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	担任教師と送迎の際に常に情報共有を行い、学校からの予定カレンダーでも情報の確認をしている。	今後も、各学校の担任教師や担当者と密に情報共有・連絡調整を行っていきと共に、それを行っている事を保護者の方にわかりやすく伝えていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	現在、医療的ケアを要する子が通所していない。	現状、医療的ケアが必要な子どもがいないが、必要な研修等を受講して徐々に体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	新規の受け入れの際に、保護者から園等の様子を聞いた就学前の情報提供を頂き、必要があれば園等からも情報提供して頂いている。	円滑に情報提供を進めていけるように体制を整えていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	事業所から連絡があった場合、情報提供している。	円滑に情報提供をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	専門機関から研修の案内があれば研修に参加している。	専門機関とは、もっと親密な関係を築いていき、円滑に多くの助言や研修を受けられるようにしたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	地域の公園や施設で体力づくりやレク等を行って、障害のない子どもたちとの関わりを少しでも増やしている。	コロナ感染対策のため、機会を設けることができなかったが、コロナが収束したら、活動範囲を広げて、子どもの交流の機会を開けるようにしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	協議会等から案内があれば参加する。	開催があれば、積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○	面談だけでなく普段の送迎の場を通して話をし、何かあれば電話でも話をしている。	より共通理解していただけるように、保護者との話の機会を増やして綿密にしていきたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	ペアレント・トレーニングの有資格者がいないので、保護者からの相談に対する援助に留まっている。	職員でも対応できるように、ペアレント・トレーニングの研修の機会があれば受講し、その成果を職員間で知識の共有をできるように努めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際に運営規程、支援の内容、利用者負担等について説明を行っている。後日、質問があったら迅速に対応している。	社内研修等で、職員の誰でもが円滑に話ができるように、より知識の共有を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保護者からの相談があった場合は、面談や送迎時等で助言を行ったり、話し合いの機会を設けている。	今後も相談があれば迅速に対応し、保護者が相談をしやすいような雰囲気作りを継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	コロナ感染対策のため、今年度は保護者会等は開催していない。また、保護者からの開催の要望もなかった。	保護者からの要望があれば、コロナ収束後に開催を検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情があれば、担当の者が苦情マニュアルに基づいて迅速に対応を行う。	今後も、苦情への対応の体制管理、迅速な対応をできるように継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	日々の活動をブログに掲載している。また、お便りの配布を行なって、情報の公開を行なっている。	日々の活動のブログの更新とお便りの配布の頻度を上げていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○	書類等は鍵付きの箱で厳重に保管している。写真は個人情報にモザイク処理をして公開している。	個人情報が入り込まないように、引き続き厳重に注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	分かりやすい説明や連絡手段を検討して支援している。外国人保護者には、ローマ字で連絡帳を書く等して対応している。	わかりやすい説明ができるように、定期的に職員研修を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	今年度はコロナ感染対策の為、イベントは開催できなかったが、例年は老人ホーム等と連絡を取ってイベント等を行っている。	コロナが収束した後、引き続き交流の機会の設置と交流範囲の拡張を考えていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルを基に研修等で職員間の周知を行っている。特にコロナ感染症対策は、行っていることを口頭や連絡帳で保護者に伝えられている。	ブログやお便り等の更新頻度を上げ、保護者に研修等を行っている事をより周知して頂けるように努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	今年度はコロナ感染対策の為、避難練習のみ行い、業者を呼んでの大規模な防災訓練は行えなかった。	保護者に訓練等を行っている事をより周知して頂けるように努めていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	市や県の研修会に参加し、研修内容は事業所内で職員に伝達している。	研修会への参加の機会を増やして、研修で得た知識を職員間でどんどん共有していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束が必要になる子は通所していない。	必要な子の受け入れがあった場合、マニュアルに沿った受け入れ体制で受け入れできるように努めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	現在、食物等のアレルギー持ちの子が通所していない。	受け入れできるように、体制を整えていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	研修等でヒヤリハットの事例の話をしたり、発生時は迅速に申し送りして職員間に伝達して予防・改善に努めている。	これまでに大きな出来事は発生していないが、発生しないためにも定期的に会議でヒヤリハットの内容を報告し、職員間で予防に努めていく。